

保育者省察尺度の妥当性検討についての一研究

会津大学短期大学部
社会福祉学科
利根川 智子

群馬大学大学院
教育学研究科
音山 若穂

東北福祉大学
子ども科学部
和田 明人

東北生活文化大学
短期大学部
三浦 主博

岩手県立大学
社会福祉学部
井上 孝之

郡山女子大学短期大学部
幼児教育学科
滝田 良子

帯広大谷短期大学
社会福祉科
上村 裕樹

保育者省察尺度の妥当性検討についての一研究

利根川 智子 音山 若穂 和田 明人 三浦 主博 井上 孝之
滝田 良子 上村 裕樹

平成 25 年 1 月 10 日受付

【要旨】本研究では、対話を中心とするアプローチによる省察力の育成において保育者省察尺度(杉村ら,2006)の妥当性を検討するため、以下の調査を行った。調査1では、現職保育者97名と保育者養成課程学生2年生387名を対象に保育者省察尺度を調査し、信頼性係数ならびに両群間での平均値の比較、学生データの探索的因子分析を行った。調査2では、現職者を対象とした自由記述アンケートの分析をもとに、保育現場で期待される「気づき」と保育者省察尺度との比較を行うこととした。その結果、1) 学生と現職とも信頼性係数は良好であり保育者省察尺度がある程度の信頼性を持っていることが推察された、2) 学生より現職の得点が高い項目が多かったが、「他の人が子どもにどのように接しているか注意深く見る」などは学生が高得点であり“他者から学ぶ”姿勢を示していた、3) 学生の因子分析結果はおおむね杉村ら(2006)の結果を反映しているが、実習場面に特有の特徴が読み取れた、4) 現職の日々の振り返りにおいては自らの実践の計画・実践・反省・改善の視点が読み取れた、5) 他者との交流を通じた省察では、迷ったときや自分の考えを確かめたいときを中心に交流を求める姿勢が読み取れた。以上の結果から、保育者養成において学生の省察力を育成する際の評価指標としておおむね適用可能であると思われるとともに、他者との交流に関する省察を中心に項目を追加しながら、“他者から学ぶ”から“自ら学ぶ”へのステップを追跡できる尺度構成となることが期待される。

I 問題

保育者養成において、省察する力をどのように育成するかは重要な課題である。省察力は保育者にとって重要な保育実践上の資質の一つであると考えられており（津守,1980；若林ら,2005；杉村ら,2006）、自らの保育実践を日々振り返りながらその都度自らの知識や技能を検証し、修正し、発展させていくことは、実際に保育に携わる保育者であれば少なからず日々実践していることであろう。これは教職者や保育者の専門職像の一つとして挙げられる「反省的实践家」（ショーン,2001）に繋がる資質であるとも考えられ、養成課程においてもこれに向けた基本的態度を養うことが求められているとも言える。

しかしながら、養成課程においてこのような省察力を育てることは必ずしも容易ではない。実際に学生が保育に携わるのは保育実習中に限られており、そのごくわずかな期間の中では、子どもたちの成長過程を追うことも、自らの実践の成果を感じ取ることも難しい。実習中の学生にとっては、実習期間中はあわただしく、先輩保育者からたくさんの指示を受けながら保育と記録に追われる毎日であって、そうした状況下では子どもとの関わり方を中心とする保育技術的な側面に目が向きがちとなり、自らの実践を立ち止まって考えてみる余裕はないのが実情であろう。また、わずかな期間の経験だけでは、十分に実践を振り返ることができず、自らの知識や技能を検証し、修正し、発展させていくには不十分であるとも言える。

そこで、ひとつの鍵となるのが事前・事後指導である。実習前に自らの課題を明確にさせ、実習後には自らの体験を振り返り自らの知識や技術の検証に結び付けさせる指導を徹底することで、たとえ実習という限られた経験であったとしても、そこから省察に向けた基本的態度を養うことができると期待される。この際にポイントとなるのは、自らの「気づき」に他ならない。指導者からの指摘を待つのではなく、自ら考えて主体的に振り返りを行うことが求められるのであり、そうした振り返りを通して、自らの知識や技術を捉え直す批判的思考や、自らの体験を反省材料としてより発展させようとする反省的態度、そして子どもや保護者、同僚などと、お互いの考え方を尊重し、オープンで発展的な関係を築いていく協調的態度などが引き出されるものと考えられる。ここに着目して、これまでも、記録に着目したもの（e.g., 幸ら,2008；山田,2010；木戸,2011；山森ら,2011）学生同士の話し合いや学び合い（新開ら,2011；安部ら,2011）をはじめ、自らの「気づき」を促すさまざまな取り組みの報告がみられる。その中で和田ら（2010）は、ホールシステム・アプローチ（Adams, et al.,1999）に基づくグループ対話の諸技法に着目し、ワールドカフェ（Brown, et al., 2005）など対話を中心とするアプローチにより保育現場や保育士養成校への学びの適用を提案している。

筆者らはこれまで、実習事前事後指導や、現職者の保育研修を対象として実践事例を積み重ねてきた（利根川,2011；和田ら,2012；音山ら,2012；三浦ら,2012）。そして、いずれの実践においても、ワールドカフェの実施後には集団の雰囲気ないし参加者の感情がポジティブに変化するという点では共通した結果を得ている。すなわち、ワールドカフェが意図する、自由でオープンな雰囲気のもとで会話が行われるという点では、一定の成果が確認されていると言える。一方、ワールドカフェによって「気づき」が高められたかどうかについては、振り返りの内容に即した具体的な検討が必要である。そこで筆者らは保育者省察尺度（杉村ら2006,2009）に着目し、改訂前の杉村ら（2006）の項目を検討した。実習生対象の結果では、おおむねカフェ後にはポジティブな変化が認められているものの、子どもに関する省察のうち、「子どもへの注意」の3項目について変化が認められないなど、一部検討の余地が残されている。もとより学生と現職者とは「気づき」の対象も、その内容も異なることが予想されるが、保育者省察尺度は現職の保育者を対象として開発と検討が進められてきたものであり、学生に対してどこまで共通の項目を適用できるか、その適用可能性についても検討が必要であると思われる。対話を中心とするアプローチによる省察力の育成にあたって、その評価尺度として保育

者省察尺度が妥当であるかどうか、検討が求められていると言える。

そこで本研究では、調査1として、保育者省察尺度について、現職保育者に加えて保育者養成課程の学生を対象として調査を行い、両者のデータを比較しながら、尺度の信頼性、妥当性を検討するとともに、学生データについて探索的因子分析を行い、項目間の構造を探ることとした。次に、調査2として、現職者を対象とした自由記述アンケートの分析をもとに、保育現場で期待される「気づき」と保育者省察尺度との比較を行うこととした。以上2つの調査を通して、学生と現職、すなわち養成課程から現職での研修場面まで幅広い機会において活用できる尺度構成の可能性を探ることを目的とした。

II 調査1

1. 方法

1) 対象

- ①保育者養成課程2年生387名。東日本地区の保育者養成校5大学・短大の在学学生を対象とした。
- ②現職保育者97名。東日本地区内の現職者対象保育研修会の参加者を対象とした。

2) 指標

保育者省察尺度 杉村ら(2006)による31項目。「保育者自身に関する省察」11項目、「子どもに関する省察」12項目、「他者との交流を通じた省察」8項目からなる。学生対象の調査については、「次の項目について、あなたは実習の中でどのくらい意識しましたか。あなたにあてはまるところに○印をつけてください」という設問に、現職対象の調査については、「次の項目について、あなたは日々の保育の中でどのくらい意識しましたか。あなたにあてはまるところに○印をつけてください」という設問に、それぞれ「1:全くない」～「5:いつもあった」の5段階で評定を求めた。

3) 手続き

学生については授業中に、現職保育者については研修会の開始時に調査票を配布し、その場で記入を求め回収した。いずれも一部はワールドカフェの際に調査を行ったが、それらについてはカフェ開始前のデータのみを本分析の対象とし、カフェ後のデータは用いていない。

2. 結果

1) 学生と現職における保育者省察下位尺度間の α と相関

下位尺度間のCronbach's α ならびに相関係数を表1に示す。学生、現職ともにいずれの下位尺度も $\alpha > .75$ であった。同様に相関係数については、 $.5 < r < .7$ であった。

		α	相関係数	
			保育者自身	子ども
保育者自身に関する省察(11項目)	学生	.759		
	現職	.853		
子どもに関する省察(12項目)	学生	.825	.650	
	現職	.894	.689	
他者との交流を通じた省察(8項目)	学生	.762	.572	.643
	現職	.840	.558	.587

2) 学生と現職における保育者省察尺度得点の比較

保育者省察尺度を構成する「保育者自身に関する省察」、「子どもに関する省察」、「他者との交流を通じた省察」それぞれ3下位尺度について、学生と現職との間で得点を比較した。「保育者自身に関する省察」の結果を表2に示す。t検定の結果、同尺度11項目の合計 ($t=-3.078, df=482, p<.01$)、ならびに「自分の長所・短所を踏まえながら保育を行う」($t=-3.504, df=482, p<.01$)、「保育とはどういうことか考える」($t=-5.075, df=167, p<.01$)、「子どもに何か言った後、その時の自分の感情について考える」($t=-6.231, df=482, p<.01$) および「保育について自分の長所・短所を考える」($t=-2.797, df=482, p<.01$) の4項目に有意差が認められ、いずれも学生に比べて現職において得点が高いことが示された。

次に、「子どもに関する省察」の結果を表3に示す。t検定の結果、同尺度12項目の合計 ($t=4.085, df=482, p<.01$)、ならびに「子どもの言動に気をつける」($t=2.072, df=482, p<.05$)、「あらかじめ子どもの行動や態度を予測しておく」($t=4.545, df=482, p<.01$)、「子どもの長所・短所を考えながら普段の行動を見る」($t=5.461, df=166, p<.01$)、「子どもをほめたり叱ったりした後、子どもがどのように受けとめたか考える」($t=4.437, df=482, p<.01$)、「子どもが1日の中でどう変わったか考える」($t=4.017, df=170, p<.01$)、「保育の出来事から子どもの本質について考える」($t=2.552, df=482, p<.05$) および「子どもにとって将来何が必要か考えながら育てる」($t=4.748, df=482, p<.01$) の7項目に有意差が認められ、いずれも学生に比べて現職において得点が高いことが示された。

表2 学生と現職における保育者自身に関する省察尺度の平均値の比較

	学生 (n=387)		現職 (n=97)		Levene F	t	df	P
	Avg	SD	Avg	SD				
保育者自身に関する省察(合計)	40.768	5.873	42.808	5.700	0.023	-3.078	482	.002 **
1子どもに対する自分の言動に気をつける	4.320	.7451	4.196	.7450	0.275	1.472	482	.142
2子どもと話すとき、自分の態度に注意を向ける	4.158	.7641	4.011	.7705	0.979	1.687	482	.092
3子どもと話した後、自分の言い方が適切かどうか考える	4.018	.7997	4.021	.8537	0.799	-0.024	482	.981
4自分の長所・短所を踏まえながら保育を行う	3.160	.9020	3.515	.8553	0.067	-3.504	482	.001 **
5子どもに何か言う前に、自分の言動の影響を考える	3.491	1.7400	3.742	.8200	2.324	-1.384	482	.167
6子どもに伝えたいことがあるとき、どのようにしたらうまく伝わるか考える	4.341	.7497	4.457	.6111	4.707 *	-1.592	176	.113
7保育における自分の振る舞いに目を向ける	3.848	.7918	3.804	.8371	0.568	0.477	482	.633
8「保育」とはどういうことか考える	3.326	.9508	3.814	.8207	7.748 **	-5.075	167	.000 **
9子どもに何か言った後、その時の自分の感情について考える	3.124	.9685	3.794	.8532	1.417	-6.231	482	.000 **
10保育について自分の長所・短所を考える	3.380	.9963	3.691	.9055	2.050	-2.797	482	.005 **
11自分の保育の方針を振り返り改善すべきところを考える	3.602	1.0163	3.763	.8511	4.211 *	-1.597	171	.112

**: $p<.01$, *: $p<.05$, Levene検定において $p<.05$ の場合はWelch検定を行った。

表3 学生と現職における子どもに関する省察尺度の平均値の比較

	学生 (n=387)		現職 (n=97)		Levene	F	t	df	P
	Avg	SD	Avg	SD					
子どもに関する省察(合計)	43.776	6.015	46.590	6.267	0.400	-4.085	482	.000 **	
12子どもと話しているとき、子どもの表情や態度に注意する	4.390	.7342	4.495	.6475	1.966	-1.284	482	.200	
13子どもの言動に気をつける	4.129	.7910	4.309	.6513	0.497	-2.072	482	.039 *	
14子どもをほめたり叱ったりする前に、子どもの受けとめ方について考える	3.884	.8783	3.866	.7587	1.931	0.183	482	.855	
15子どもと一緒にいるとき、子どもの行動に注意を向ける	4.165	.7810	4.216	.7250	0.201	-0.585	482	.559	
16子どもの発達について考える	4.010	.8207	3.948	.7551	1.371	0.674	482	.500	
17あらかじめ子どもの行動や態度を予測しておく	3.323	.8647	3.763	.8007	1.738	-4.545	482	.000 **	
18子どもの長所・短所を考えながら普段の行動を見る	3.403	.8504	3.876	.7396	11.127 **	-5.461	166	.000 **	
19子どもをほめたり叱ったりした後、子どもがどのように受けとめたか考える	3.783	.8422	4.198	.7447	1.541	-4.437	482	.000 **	
20子どもが1日の中でどう変わったか考える	2.791	.9844	3.186	.8333	5.203 *	-4.017	170	.000 **	
21子どもの話の中に子どもの感情を感じとる	3.827	.8508	3.897	.8227	0.189	-0.730	482	.466	
22保育の出来事から「子ども」の本質について考える	3.070	.9064	3.330	.8627	0.130	-2.552	482	.011 *	
23子どもにとって将来何が必要か考えながら育てる	3.000	.9577	3.505	.8432	0.015	-4.748	482	.000 **	

**: $p<.01$, *: $p<.05$, Levene検定において $p<.05$ の場合はWelch検定を行った。

第三に、「他者との交流を通じた省察」の結果を表4に示す。t検定の結果、4項目に有意差が認められた。このうち、「他の人と保育の話をして、自分の保育の方針を改める」($t=-2.126, df=482, p<.05$) および「子育てに関する本や雑誌を読み、自分の保育観と照らし合わせる」($t=-5.710, df=482, p<.01$) の2項目においては、学生に比べて現職において得点が高い傾向が示された。一方、「他の人が子どもにどのように接しているか注意深く見る」($t=6.374, df=482, p<.01$)、「他の保育者が担当している子どもの言動を注意深くみる」($t=4.657, df=482, p<.01$) の2項目においては、現職に比べて学生のほうが、得点が高いことが示された。

表4 学生と現職における他者との交流を通じた省察尺度の平均値の比較

	学生 (n=387)		現職 (n=97)		Levene	F	t	df	P
	Avg	SD	Avg	SD					
他者との交流(合計)	29.915	4.426	29.722	4.596	0.003	0.381	482	.703	
24他の人と子どもの話をする中で、自分が担当している子どもの特徴に気づく	3.654	.9128	3.784	.8444	3.220	-1.270	482	.205	
25他の人の保育をみて、今の自分の保育に必要なことに気づく	4.336	.7521	4.227	.7289	1.157	1.285	482	.199	
26他の人が子どもにどのように接しているか注意深く見る	4.543	.6792	4.031	.8095	0.000	6.374	482	.000 **	
27他の人と保育の話をして、自分の保育の方針を改める	3.442	1.0070	3.680	.9077	2.175	-2.126	482	.034 *	
28他の人と話しているうちに、保育に関する疑問が解決する	3.713	.9150	3.536	.8044	1.672	1.744	482	.082	
29他の保育者が担当している子どもの言動を注意深くみる	4.005	.9019	3.526	.9253	3.838	4.657	482	.000 **	
30子育てに関する本や雑誌を読み、自分の保育観と照らし合わせる	2.724	1.0449	3.381	.8832	2.728	-5.710	482	.000 **	
31いろいろな話を聞いて自分の子ども観を見直す	3.499	.9587	3.557	.7633	8.592 **	-0.633	180	.527	

**: $p<.01$, *: $p<.05$, Levene検定において $p<.05$ の場合はWelch検定を行った。

3) 学生における保育者省察尺度の因子分析結果

保育者省察尺度は3つの下位尺度から構成されているが、学生を対象としてこれらを込みにした尺度全体の構造を検討するため、31項目全てについて、学生のみデータを用いて因子分析を行った。主因子法により固有値1以上基準で因子抽出を行ったところ8因子を得た。Promax回転後の因子パターンを表5に示す。因子Iは杉村ら(2006)における「子ども注意」因子の3項目を含む「子どもに関する省察」4項目から構成されていた。因子IIは「他者との交流を通じた省察」を中心として、これに「子どもに伝えたいことがあるとき、どのようにしたらうまく伝わるかを考える」を含めた6項目、因子IIIは「子どもに関する省察」のうち杉村ら(2006)の「子ども考慮」因子の5項目から構成されていた。因子IVには3つの下位尺度すべての項目が含まれているが、「子どもが1日の中でどう変わったか考える」「保育とはどういうことか考える」に代表されるように、保育中の実感というよりも、むしろ後になって、自らの保育の意味を振り返る作業に近い内容によって構成されている。因子Vはいろいろな話や、本や雑誌を通じた自己学習に関するものであり、因子VIは保育中の自らの態度や言動に関する項目によって構成されている。因子VIIは自分の長所・短所を考えるとといった、保育者としての自分を客観的に見つめ直し自省する内容によって構成されていた。

表5 学生における保育者省察尺度の因子分析

	因子パターン(主因子法、Promax回転)								抽出後 共通性
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
13 子どもの言動に気をつける	.716		-.172	.127					.584
15 子どもと一緒にいるとき、子どもの行動に注意を向ける	.584	.133	.136	-.156					.502
12 子どもと話しているとき、子どもの表情や態度に注意する	.543	.174							.461
14 子どもをほめたり叱ったりする前に、子どもの受けとめ方について考える	.347		.213					.139	.364
26 他の人が子どもにどのように接しているか注意深く見る	.238	.696			-.155				.523
25 他の方の保育をみて、今の自分の保育に必要なことに気づく		.547							.382
6 子どもに伝えたいことがあるとき、どのようにしたらうまく伝わるか考える		.397	.189	-.229			.181	.127	.416
29 他の保育者が担当している子どもの言動を注意深くみる	.185	.390			.151				.331
28 他の方と話しているうちに、保育に関する疑問が解決する		.357			.322		-.126		.280
27 他の方と保育の話をして、自分の保育の方針を改める	-.106	.357		.233	.322				.470
19 子どもをほめたり叱ったりした後、子どもがどのように受けとめたか考える	.145		.549						.425
18 子どもの長所・短所を考えながら普段の行動を見る			.526	.105		.112			.387
16 子どもの発達について考える		.406	.479		-.116				.379
17 あらかじめ子どもの行動や態度を予測しておく			.477		.108				.331
21 子どもの話の中に子どもの感情を感じとる	.378		.426			-.228			.439
9 子どもに何か言った後、その時の自分の感情について考える			-.145	.592	-.210	.125	.186		.412
20 子どもが1日の中でどう変わったか考える	.103	-.168	.304	.561				-.129	.486
8 「保育」とはどういうことか考える	.147	.122	-.111	.458				.193	.380
22 保育の出来事から「子ども」の本質について考える			.295	.445		-.179		.125	.471
23 子どもにとって将来何が必要か考えながら育てる				.338	.220				.258
24 他の方と子どもの話をすることで、自分が担当している子どもの特徴に気づく		.235	.247	.312			-.107		.283
31 いろいろな話を聞いて自分の子ども観を見直す					.747				.537
30 子育てに関する本や雑誌を読み、自分の保育観と照らし合わせる		-.123			.718				.491
1 子どもに対する自分の言動に気をつける						.755			.587
2 子どもと話すとき、自分の態度に注意を向ける						.737			.593
3 子どもと話した後、自分の言い方が適切かどうか考える		.154	.181			.233	.161		.268
10 保育について自分の長所・短所を考える						-.157	.780	-.114	.593
4 自分の長所・短所を踏まえながら保育を行う		-.188			.110		.689		.504
11 自分の保育の方針を振り返り改善すべきところを考える	-.244	.267		.175			.311		.411
7 保育における自分の振る舞いに目を向ける	.156				.111		.180	.172	.368
5 子どもに何か言う前に、自分の言動の影響を考える								.776	.524
抽出後の負荷量平方和	7.574	0.816	1.468	0.848	0.826	0.905	0.531	0.471	
分散%	24.433	2.631	4.735	2.736	2.666	2.92	1.713	1.519	
回転後の負荷量平方和	4.082	5.022	5.167	4.482	4.181	2.78	4.27	2.808	
因子間相関	II	.479							
	III	.477	.476						
	IV	.298	.427	.512					
	V	.239	.467	.550	.534				
	VI	.307	.348	.339	.244	.229			
	VII	.317	.526	.427	.565	.473	.316		
	VIII	.318	.393	.452	.326	.311	.378	.451	

値が0.1以下の係数は表示していない。

3. 考察

1) 保育者省察尺度の信頼性

本分析では学生と現職それぞれについて、3つの下位尺度の α 係数を求めた。その結果、いずれの下位尺度もおおむね良好な値が得られ、また相関係数についても両者間で極端な差異は認められなかった。このことから、学生を対象とした場合にも、保育者省察尺度がある程度の信頼性を持っているとみていいものと思われる。もっとも、以下の分析に示すように、学生と現職との間で得点差の大きい項目もあり、そうした項目のなかにはわずかな実習経験しか持たない学生を対象とした設問としては必ずしも適切ではないものが含まれている可能性も残る。今後は学生向けに実習場面に即した項目を追加するなどが考えられるが、学生と現職との比較研究のためには項目の構成にある程度の共通性を持たせる必要もあり、この点はデータを蓄積した上でさらに検討が必要であるものと思われる。

2) 学生と現職における保育者省察尺度得点の比較

本分析では学生と現職の2群間の平均比較を行った。その結果、「保育者自身に関する省察」と「子どもに関する省察」においては、それぞれ合計得点が学生より現職の得点が高い結果となり、項目ごとにみても、学生より現職のほうが高い項目がいくつか得られた。学生より現職で得点が高かった項目には、「あらかじめ子どもの行動や態度を予測しておく」「子どもの長所・短所を考えながら普段の行動を見る」といった子どもの継続的な観察が求められるような、実習中の体験しか持たない実習生には振り返りにくい項目も含まれている。また、「保育とはどういうことか考える」「子どもが1日の中でどう変わったか考える」「保育の出来事から子どもの本質について考える」のように、保育中の実感というよりも、むしろ後になって自らの保育の意味を振り返る内容も含まれており、こうした点について学生の得点が相対的に低いということは、調査時点では実習内容の振り返りがまだ十分でないことが考えられる。実際、ワールドカフェを通じた振り返りの経験後に再度測定した結果を実施前と比較すると、これらの得点が増加している(利根川ら,2011)。ワールドカフェなど学生同士の対話を中心とする演習において、自らの実習体験を振り返り、より一層の「気づき」を得ることができているかどうかの評価においては、こうした項目が中心となることが考えられるであろう。

一方、「他者との交流を通じた省察」については、合計得点については学生と現職との間に差は認められず、「他の人が子どもにどのように接しているか注意深く見る」、「他の保育者が担当している子どもの言動を注意深くみる」の2項目では、現職に比べて学生のほうが高得点という結果となった。両項目ともに子どもとの接し方についての具体的なスキル獲得に関する項目であり、他の保育者をお手本とするというような、“他者から学ぶ”姿勢を示しているように思われる。どういう接し方をしたらいいのかを知りたくて、周囲を見回しているといった学生の様子が見て取れるであろう。

3) 学生における保育者省察尺度の因子分析結果

本分析では、学生の振り返りの傾向を把握するため、31項目を一括して探索的因子分析を行った。その結果、因子Ⅰや因子Ⅱといった、子どもとの関わり方を意識したり、周囲の保育の様子を意識するなどの、実習中の直接的な経験に強く関連する項目がまとまっていることが見て取れる。因子Ⅰは杉村ら(2006)における「子ども注意」、因子Ⅱは「他者との交流を通じた省察」をそれぞれ中心としており、学生における分析においても、おおむね杉村らの結果が反映されていると考えることができるだろう。一方、因子Ⅲや因子Ⅳは、保育中ではなくむしろ実習を終えた段階で自らの実践の意味を振り返る作業に近い内容によって構成されている。ショー

ンは省察を「行為の中の省察」と「行為についての省察」とに分け、後者は行為しながら行った思考や理解の意味を振り返り、行為後に考えることでその経験を意味づけることであるととらえているという（森ら,2000；金川,2006）、いずれにしても因子Ⅲや因子Ⅳのような後になって自らの保育全体を振り返ることが、実習生において、保育中の振り返りを示す因子Ⅰや因子Ⅱとは異なる次元として捉えられている可能性があるということは興味深い。また、自分自身についての振り返りに関しても、態度や言動に関する因子Ⅵと、長所・短所を見極めることに関わる因子Ⅶとに分かれていて、自分の長所や短所を見極めることが往々にして苦手であるという学生の特徴がよく表れている。分析結果を全体としてみると、単純構造でない部分も一部みられるものの、総じて実習中の学生の特徴がよく反映されている分類となっていると言えるだろう。

Ⅲ 調査2

1. 方法

1) 対象

I 県内の幼稚園教諭 46 名。経験年数 1～3 年が 7 名、4～6 年が 6 名、7～10 年が 6 名、11 年以上が 26 名、不明が 1 名であった。

2) 指標

①研修テーマ（自身が研修を受けるにあたり研修テーマをどのように選択しているか）、②計画作成（子どもとの一日の生活を計画する際に大切にしていること）、③日々の振り返り（子どもたちとの一日を振り返るときに大切にしていること）、④臨機応変（子どもたちと生活を送る際、臨機応変な対応が必要な場合の状況判断力は、どんな体験や経験をもとに形成されたか）、⑤情報源（どのような情報や情報源をもとに子どもを理解しているのか、子ども理解について同僚の意見を求めるのはどのような場合か）、⑥実践力（実践力がついたと感じられた職場の方からのアドバイスや指導の内容）、⑦磨いていること（自身が保育の実践家として成長するために、常に磨いていること）、⑧自身の成長（保育を実践される中でどんなことができたときに、ご自身の成長を感じるか）、⑨実践家に必要な資質（保育の実践家にはどうしても必要だと思われる知識・技術・態度はどのようなことか）、⑩保育の担い手として必要な資質（これからの保育の担い手として必要な知識・技術・態度はどのようなものか）、以上 10 項目について、それぞれ自由記述で回答を求めた。

3) 手続き

研修会において参加者に調査票を配布し、郵送により回収した。

2. 結果

①研修テーマ どの経験年数においても、「保育に活かせる」ものや「興味のあるもの」や「今の自分に足りないと思うこと」、「クラスの子どもの保育する中で悩んでいる事や不安な事に合ったテーマ」といった保育に活かせることや自分の保育において不安なことについて研修で学ぶ記述が見られた。経験年数が 4 年以上の回答者に「自分の保育を見直されたり、これからの保育のプラスになるもの」、11 年以上の回答者に「自分自身を考えるための研修」といった自らの保育や自分自身について省みる内容の記述があった。

②計画作成 どの経験年数においても、子どもの興味・関心、楽しめること、発達にあわせた計画作成についての記述が見られた。また、経験年数が 11 年以上の回答者に、子どもたちの成長にあわせることに加え、「一歩成長がみられること」や多少の無理を「子ども達のがんばる力」に変えるなどの成長を促す観点からの記述

が見られた。

③日々の振り返り どの経験年数においても、「クラス全員、一人ひとりと関わりを持てたか」、「一人ひとりと少しでも多くかかわったり、一日の姿を見ていく事ができたか」、「子どもにとって自分はどうか」、「トラブル、泣いている子などへの対応は適切であったかどうか」、「教師の発した『言葉』がその場その場で適切であったか」、「子どもを叱った時、事前に自分がそれをふせげる対応や、援助はなかったか」など自分の働きかけや援助についての記述、「子ども一人ひとりの姿」、「子ども達がどんな事に興味をもっていたか」、「一人ひとり、今日の様子を思い出し、子どもの気持ちを考えるようにしています」、「生き生きと活動に参加できていたか」、「子どもたちが「今日も楽しかった」「明日も楽しみ」と思っているか」、「子ども達の頑張った所を認め、明日へつなげていく」、「怪我やトラブルなど嫌な思いをして帰った子がいないかどうか」など子どもの一日の様子について振り返る記述などが見られた。また、「計画に無理がなかったか」、「活動に合った環境作りだったかどうか」、「その日の保育計画のねらいに沿った援助を行うことができたかどうか。また、その結果、ねらいを達成できたのか」といったPDCAサイクルについての言及もされていた。

④臨機応変 臨機応変な対応をする判断力については、どの経験年数においても「他の先生の日々の保育を見て」、「今まで一緒に働いてきた先生方の姿」など同僚や職場の先輩から学んだという記述が、また、経験年数が増えるにつれて同僚や先輩からの学びに加え「よい意味で長い間の成功体験や失敗の反省を活かしている」、「様々な場면을繰り返し経験し、考えたり、試したりする」、「今まで自分が対面した経験からの判断」といった自らの経験や試行錯誤によるものとする記述が見られた。

表6 研修テーマ

ID	年数	記述
4	1	・子どもを教育する上で、どのような視点で子どもを見れば良いのか。 ・実践で活かせる保育の方法
15	1	今自分に何が足りないか、何を学びたいのか、保育をするにあたって今現在、自分が何を求めているのか等を考えて。
19	1	・自分が更に知識を増やしたいこと ・一つのことをもっと具体的に知りたい時
22	1	障がい児保育に興味がある。(以前参加した)
27	1	・自分が知りたいと思うこと、(興味がある) ・自分を高められるような内容
41	1	今、自分にとって力不足なところ、力をつけたいと思っているもの
44	1	・クラスの子どもの保育の中で悩んでいる事や不安な事に合ったテーマだった場合。 (障がい、言葉、食育、あそびなど) ・自分自身の保育技術が向上できそうな、すぐ実践できそうな内容の場合。
10	2	実践出来る内容や良いとすすめられて・・・
16	2	記述なし
21	2	今の自分の保育の中での悩みや、気になること、興味のあることになるべく合っているものを選択するようにしている。
36	2	・自分の保育を見直されたり、これからの保育のプラスになるもの。(どれもプラスになるものだと思いますが・・・) ・今の自分に適しているもの
37	2	興味のあるもの、自分に足りないと思うものに合ったものを選びます。
39	2	保育に役立てるものや、自分が興味を持ったもの。
6	3	・興味のあること ・今の担当に必要な項目
14	3	今の自分のクラス運営に必要と思うテーマを選択、悩んでいる事など
28	3	自分にとって足りない部分や、学びたいことのある研修会や、分科会を選択している。
31	3	興味を持ったもの、学んでみたい・自分にとってよい学びが出来そうなもの。
38	3	すぐに保育に取り入れられるようなもの等です
42	3	・分かりやすい ・テーマの内容 例) 子どもに寄り添った保育方法、幼稚園教諭の在り方等
42	3	自分にとって、身近なことで。
1	4	選択の余地はありません
2	4	その時の、自分に必要なもの、興味をもっているものなどのテーマを選んで決める
3	4	自分が興味・関心のあるテーマを選びます。また、苦手としている分野も選びます。
5	4	子どもと一緒に楽しめる内容の研修か自分自身を考えるための研修
7	4	自分にとって、足りない若しくは必要であると感じている分野について
8	4	その年のクラスの中でどう援助したらよいか悩んだ時にテーマを決めている
9	4	自分の興味のある事又は自分に不足している部分の勉強のためのものを選ぶ
11	4	自分が興味のあること、気になっていること
12	4	今の子どもたちに必要、勉強したいをポイントに選択している
13	4	園内研修と同様なもの、又は、今自分が学びたい知りたいと思っているもの
17	4	その時に担当しているクラスの子も達に重なり合う物が見えそうなテーマであることなど
18	4	自分の保育に活かしていける身近な内容
20	4	自分が学びたいと思う研修テーマで選択してます
23	4	・今後の保育に取り入れていけるもの ・保育の中で悩んでいる事についてのもの
24	4	すぐ実践できるもの
25	4	今自分自身が悩んでいる事と、テーマの内容が近いもの
26	4	知りたいこと、疑問に思うこと、自分に足りないこと
29	4	自分に欠けている知識、新しい情報
30	4	今の自分が興味のあるテーマや、今後、勉強したいと思った研修をうけています。
32	4	・実際の保育で活用できるような具体的なテーマのもの ・保育者としての心がまえ、子どもの内面の読み取り方など
33	4	自分が一番に(その時に)関心を持っていることがテーマに入っている時やおもしろそうだなと興味を引かれるようなテーマの時。
34	4	・自分の、今、現在の保育にあった内容のもの、興味のあるもの、子どもと接する上で必要であると感じた内容のもの等々。 ・自分の身になるであろう研修会には、たくさん参加したいと思っていますが、なかなか研修に参加する時間がとれず、実際には断念せざるを得ない状況のことが多いです。
35	4	・楽しそうなテーマを選ぶ ・または、自分の苦手分野のテーマの研修があれば、研修を通して前向きに勉強していければいいと思っています。
40	4	研修を受けて、すぐ子ども達におおせる物や自分の保育の課題となる物を勉強したいのでそれがテーマと合った物であればいいかなと思っています。
43	4	今の自分に足りない部分を補えるような研修を選ぶようにしている。
45	4	今の自分にとって不足している事や教育要領など改訂になった場合などはその事など
46	不明	研修を受ける時点で、興味がある事を選択しています

表7 計画作成

ID	年数	記述
4	1	自分の提供しようと思う活動と、子どもの実態(興味等)がずれないように。
15	1	・前日、当日の子どもの表情や態度。 ・頑張っていて取り組んでいるもの、興味を持っているもの
19	1	一人一つ、その子の頑張っているところ、良いところを見付け褒めること
22	1	・分かりやすく丁寧に伝えること(今日やることなど) ・子ども達と一緒にやりたいこと(発達のレベルを考えて)を保育雑誌を見て参考に計画を立てる
27	1	その子がどこまでできるのか、ということを考えながら遊びの様子を見たりし、楽しみながら達成感を感じられるものを探すようにしている
41	1	その流れ、その進める内容やペースは子ども達にとって出来る内容か、負担はないか
44	1	・その時々の子どもたちが興味ある物、事をなるべく取り入れる。 ・季節に合った、季節の楽しさを感じられるような内容を取り入れるようにしています。
10	2	子供達が楽しく生活出来るように考える
16	2	・約束を守る事 ・友達と協力する事
21	2	・クラスの子どもたちの興味、関心にあっているかどうか。又、興味が持てる内容か。 ・クラスの子ども達の成長に合っているかどうか。
36	2	楽しく、自分でできること・頑張れることはどんどんやらせて見守り、応援する。
37	2	全員で、活動する、ということを入れています。 みんなで同じところまで進められるよう。
39	2	日々の様子や、子どもたちの目線に立って、年齢に見合ったものを考え、実行している。
6	3	それまで(前日)の保育とのつながり
14	3	集中して取り組める時間と開放できる時間を設ける「静と動」
28	3	・クラスの子ども達の現状や、興味・関心を把握すること。 ・どのような願いをもって保育をするか→ねらいの設定→そのために、どのような環境構成や援助が必要であるかを吟味する。 ・前日の反省や、1週間の流れを確認する。
31	3	・天候・季節。 ・子ども達の様子から、このような事をみんなでしてみたいというねらい。 ・一番は楽しむこと!!を大切に。
38	3	子どもが楽しんで行えるもの、一日の生活の中でのめりはりです。
42	3	・大きなケガがないよう、配慮 ・子ども全員が、楽しめるよう、一人ひとりに合った援助
1	4	自分がやらせたいだけでなく、子どもが本当にやりたいと思えるかなと自問自答すること
2	4	毎日、同じような活動にならないように、一日の生活の中で一つの事だけでなくいくつか経験できることを考える
3	4	子ども達が「楽しかった」と思えるような活動をとり入れたいと思っています。また、絵本や紙芝居、お話を聞くなど心を落ち着かせる時間や、一日をふり返り明日への楽しみを持ってよう話をする時間も作っています。
5	4	楽しむ!
7	4	子どもの安全確保
8	4	いろいろな出来事があるので、帰りに一人ずつ声をかけ、元気に帰り、明日への期待を持たせている
9	4	子ども達が楽しめる所を必ず入れるようにする
11	4	子どもたちが楽しく出来る(楽しいと思う)活動を入れるようにしている
12	4	楽しく、むりのない活動ができるように考えている。
13	4	昨日より生き生きとした子ども達の姿が発揮できる環境と子ども理解を深める為の環境づくり
17	4	発達段階、興味、季節
18	4	今この時期、この時に経験させたいことは何かを考えて計画をたてている
20	4	園の教育課程
23	4	今の子ども達の姿から、伸ばしていきたい面や今の時期に必要な事を取り入れている。
24	4	一日が楽しいと感じて帰れること
25	4	・子どもの興味・関心が高いものを遊びとして提供できるようにしている ・一斉活動における課題的活動は活動時間の中で少し余裕をもってできるような内容にする ・子ども達がなるべく自分達で生活をすすめていけるように計画する
26	4	今の子ども達の姿、興味、関心に即したものかどうか
29	4	・ねらい ・静と動 ・集中とリラックス
30	4	・子どもたちが無理や負担にならない計画を立てています。 ・季節に合った催しを取り入れたり、今、子ども達が興味や関心を持っている事を取り入れています。
32	4	その日子ども達にとって充実したものになるようにすること 経験・成功・失敗
33	4	子どもの気持ちを出来るだけわかってあげられるように、成長に合わせた計画をすること、あわせてあげるだけではなくもう一歩成長がみられるようなことも組み入れたりすること。
34	4	日々のつながりを大切に、今、子どもたちが興味を持っていることや遊びを見極めながら、子どもたち一人ひとりが楽しいと感じられるような保育ができるよう、心がけています。
35	4	・子どもが楽しいと思う生活。 ・無理のない時間配分 ____しかし行事、うんどう会の練習は、多少無理な部分もあると思うが、それをのりこえ、子ども達にがんばる力にかえてほしい。
40	4	発見できる物、楽しめる活動など
43	4	帰る時に"自然に笑顔がでる"そんな保育ができるように努力している。
45	4	子ども達の成長にとって、今何が大切かと考えながら、楽しくすごすこと
46	不明	子どもが楽しめる事と共に健康・安全を考える

表8 日々の振り返り

ID	年数	記述
4	1	全体、個に対し、どのような態度で接することができたか。(表情、言動)
15	1	・子どもたちが「今日も楽しかった」「明日も楽しみ」と思っているか。 ・少しでも、子どもたちが「自分で考える場」「自分で考え、やりたいことをやってみる場」をつくることができたか。
19	1	今日の楽しかったことを共感し、一緒に思い出し、明日の楽しみを知らせ、一緒に期待を持っていく
22	1	うまく思いが伝わったかどうか 環境構成はうまく出来たか
27	1	関わり方やその子が本当に伝えたかったのは何だったのかななどをよく考え、明日へいかせるようにすること。
41	1	出来たことや、良いことは皆の前で呼んで誉め、自信へとつなげる、
44	1	一人ひとり、今日の様子を思い出し、子どもの気持ちを考えるようにしています。
10	2	一人一人の名前・顔を見たか・・・等、考え出来ていない時は、反省
16	2	言葉のつかい方、言い回しの仕方
21	2	・クラス全員、一人ひとりと関わりを持てたか。 ・それぞれの場面での言葉掛けは適切だったか。 ・トラブル、泣いている子どもへの対応は適切であったかどうか。
36	2	一人ひとりのことを思い出すこと。
37	2	一人ひとりの活動中等の様子や表情、言葉
39	2	毎日全員をじっくり見るのは難しいので、その日の活動内容やエピソードなどで、子どもたちの姿を見る。
6	3	子ども達の表情・言動
14	3	一人ひとりしっかりと向き合ったかどうか
28	3	・その日の保育計画のねらいに沿った援助を行うことができたかどうか。また、その結果、ねらいを達成できたのか。 ・活動における子どもの姿を記録しておくこと。
31	3	一日を振り返った時に、今日の出来事や子どもが言っていた言葉など沢山出てくるが、よく考えてみると、なぜそのような事をしたのか、言ったのかに分かってくる。「なぜ」を考えてみる事と、今後を考える事を大切にしている。これからは気を付けていこうという課題が見つかるからだ。
38	3	一人ひとりと会話をしたか、一人ひとりに目を向けていたかどうかです
42	3	・子どもを叱った時、事前に自分がそれをふせげる対応や、援助はなかったか。 ・一人ひとりの子どもたちと、かかわりを持てたか。
1	4	子どもたちが自分からやってみようとしたかな・・・と考えることが多いように思います。
2	4	子ども達がどんな事に興味をもっていたか
3	4	お友達の良い点を発表したり、皆が頑張った点を伝えたいと考えています。また、どんな一日だったか子ども達からの話も聞きます。次の日への楽しみな気持ちが持てるような話もするようにしています。
5	4	子どもにとって自分はどうだったか？
7	4	子ども一人ひとりが、いつもと違う様子はなかったか、思い浮かべ振り返る。
8	4	子どもたちからのことばを引き出すようにしている
9	4	子どもたちの頑張った所を認め、明日へつなげていく
11	4	今日、頑張ったこと、誰かが良いことをしたなど、見つけて、皆んなに話すこと(互いに誉め合えるように)
12	4	あの子、この子と、クラス内の子どもひとりひとりに、声をかけたかを振り返るようにしている。
13	4	教師の発した『言葉』が、その場その場で適切であったか
17	4	一人一人との向き合った時間と内容
18	4	・子どもたちが楽しんで過ごすことができたか ・怪我やトラブルなど嫌な思いをして帰った子がいないかどうか
20	4	子どもたちの一人ひとりの様子はどうか 生き生きと活動に参加できてたか
23	4	一人ひとりと少しでも多くかかわったり、一日の姿を見ていく事ができたか。
24	4	一人ひとりしっかりと接したかということ
25	4	・自分の援助の仕方(言動も含めて)適切であったかどうか？ ・子ども達が楽しく一日を生きいきと過ごすことができていたか？
26	4	・嬉しさ、楽しさ、悲しさ、悔しさなど気持ちの共感 ・明日への期待感
29	4	・ねらいが達成できたか ・子どもひとりひとりの姿
30	4	・子ども達がやり遂げた嬉しさや成し遂げた達成感を味わう事が出来たのか振り返ります。 ・計画に無理がなかったか、子ども一人ひとりの様子・成長を振り返ります。
32	4	友達との遊びがどうだったか(楽しい、悔しい、難しいなど様々な体験ができたか)
33	4	子どもたちとの中で自分は、適切な援助をしてあげることができたかどうか。
34	4	子どもたちに笑顔があったか、又、自分自身も笑顔で元気に接していたか、今日一日充実した内容であったか等子どもの様子や自分の接し方を反省する時間を大切にしています。
35	4	・子どもを叱った時に、言い方、対応が大丈夫だったか。 ・子ども達と楽しんだ事を思い、今日のことがプラスになっていけるかどうか。
40	4	子ども達と真剣に向き合えたか、活動に合った環境作りだったかどうかなど
43	4	全体の反省をしながら、一人ひとりの育ちをからめて反省するようにしている。
45	4	一人ひとりの子ども達が今日どのようにすごしたか、友達とはどうだったか
46	不明	その日に子ども達の変化があったかどうか、変化がなければなぜなかったのかなど考える

表9 臨機応変

ID	年数	記述
4	1	他の先生の日々の保育を見て得たもの
15	1	・今までの保育にかかわってきた日々。 ・先輩の先生方からのアドバイス。保育を見て。
19	1	他の先生方の対応や効率良く行うため事前に考えておく
22	1	・経験が浅いため、昨年どんな対応をしていたかメモをとったのを見る。 ・あとは自分の判断で行ってしまい、失敗したことの方が多い。
27	1	"子どもと同じ目線に立って遊びを展開していくことで、見えてくるものがある"という事を感じ、実践している。
41	1	活動や練習などを進める際、スムーズに進められるよう先輩の動きを見て。
44	1	・今までの保育の中から。 ・学生生活やアルバイトの中から。
10	2	まだまだ臨機応変に行動する事は、難しい事もありますが、まわりの先生方のアドバイスを聞き、対応するようにしています。
16	2	先輩教師の対応をよく見る
21	2	・学生時代、教育実習の時に経験して学んだこと。 ・家庭の中で、親、兄弟、親戚、ご近所の人たちに教えてもらったこと。 (ケガをした時はこうする、食事のマナーについて など)
36	2	記述なし
37	2	・普段の家での生活や、保育中のことをもとにしています。 ・他の先生方の行動を参考にしています。
39	2	副担任(補助)として、勤めている時に、組んだ先生の姿から。
6	3	周囲の先生方を見て、学んできた経験
14	3	・先輩の姿から ・自分の子育ての経験から
28	3	失敗や、反省が根底にあるように思います。試行錯誤しながら、様々な対応を試み、何度も失敗しながら「こうすると良いんだ」と自分の力になってきたように思う。
31	3	毎日の子どもとの関わり、経験から形成されていると思う。やはり、経験年数が増えていくにつれ、判断力はついてきていると思う。→予想ができるようになってきているのかも知れない。
38	3	臨機応変な対応ができる状況判断力があるかどうかわかりません
42	3	何度も繰り返し、行っている行事での子どもの様子を振り返って、うまくいかなかった場面を、次、どのようにすれば良いか、考えて。
1	4	・自分が予想もしていなかった子どもの反応があったこと ・自分だったらこうするだろうという時に違う言動をした同僚の姿
2	4	今まで一緒に働いてきた先生方の姿など
3	4	成功よりも失敗から学び身につくことが多いように思います。また、先輩や後輩関係なく、今までの先生達の対応を見て良いと思ったものを
5	4	わかりません。対応できている気がしません。
7	4	先輩教諭の、見本となる行動を思い出し、自分も見習うようにする
8	4	子どもの立場、自分の子だったらと考え、何が正しいか、導くようにしている。潜在感で見ないようにしている
9	4	子どもたちと向い合って生活することで、その子に合った指導法、出来ること出来ないことと状況を判断し対応している
11	4	毎日の生活の中で子どもたちを良く見て接していくことで その子(学年)を把握しやれることやれないことを判断して行っている
12	4	「自分だったらどうか」と「どうするか」と考えて、判断している。
13	4	長く勤めている(30年以上)ので、よい意味で長い間の成功体験や失敗の反省を活かしているのだと思います。
17	4	・危険が伴う時は、そのことを優先に。 ・子ども達の様子を見ながら遊びの盛り上がりなどで計画を変える
18	4	先輩の先生方がやってきた対応の仕方を見たりきいたりした経験や、今まで自分が対面した体験からの判断。
20	4	失敗した時、上手く保育を進められなかったこと
23	4	・自分自身の体験(小さい時の事から今現在まで) ・日々子どもたちとのかかわり ・周りの保育者の姿
24	4	記述なし
25	4	具体的な事はわかりませんが職員全体の中で自分の役割が何なのか、今自分がどのような行動をとれば、保育や園務が円滑に進むのか、などを常に考えながら仕事をするようにしています。
26	4	様々な場면을繰り返し経験し、考えたり、試したりする
29	4	・先輩の先生方の対処の仕方、指導から ・自分の失敗経験から ・本や研修で得た知識から
30	4	・子どもが体調を崩したり、園生活中にケガをした際に判断をします。 ・先輩の対応を参考にしたり、アドバイスをうけて対応しています。 ・緊急時にあせる事のないよう、事前に連絡先を把握したり、子ども一人ひとりの発育状況や心配な点、配慮する事を保護者と確認しています。
32	4	失敗したこと、成功したことなど総合的に判断して
33	4	・今までの保育の中での経験や保育に関する本など。 ・同じ保育をしている仲間との話の中で。
34	4	計画した保育内容に対し、子どもが楽しそうに参加していない時等。こちらが遊びとして捉えていた活動が、子どもには、そのように捉えられていず、「もう遊んでいいの?」という言葉が聞こえてきた時、押しつけの保育ではいけないと急ぎよ、内容を変更したことがあります。
35	4	行事では、子ども達の行動が普段と違ってくので、やはり何度も経験していると、こうなるのではないかとある程度、予測できますが...それでも予測不能な場合も多く...その場に応じて対応します。
40	4	子ども達個々によって違うので、今までの保育経験、また、他の先生がいる場合は相談しながら判断するようにしている。
43	4	・自分がうまれてから今までの経験 ・幼稚園教諭をする前は事務職などしたことがあり、他の職場での経験もいかされている。
45	4	今迄の保育経験の中から、特に失敗したことなどはより注意して行います
46	不明	どのような体験も経験も、過去の事を参考にする

⑤情報源 どの経験年数においても、「家庭や他の先生から聞いた子どもの様子」、「親や前担任からの情報」、「会議や、一日の集会などの場面での情報交換時」、「実際の園での様子」など、情報源としては保護者や他の教諭、子どもとの関わりの中で情報を得ているとする記述があった。少数ではあるが、書籍、インターネット、保育雑誌、研修会、療育センター等の記述も見られた。また、同僚の意見を求めるのは、「援助に困ったとき、分からない時」、「自分の考え方が正しいかどうかわからなくなった時」、「柔軟な見方ができなくなっている時」など、指導・援助での困難を感じた時や子どもの姿を捉えるにあたり迷った際に同僚の意見を求めるといった記述が、どの経験年数においても見られた。

⑥実践力 どの経験年数においても、「自分も楽しくなければ、子どもも楽しくない」、「子どもの行動を予測して保育の準備をする事」といった保育の基本的な姿勢や保育の計画について、「子どもが話を聞いてくれない、クラスが落ちつかない時、しかるのではなく、誉めたり、良いところを見つけて」、といった指導・援助の具体的な方法についての記述が見られた。また、4～10年程度の中堅層において、「自分の力を見極めながら、それに合った、仕事を与えて下さり、丁寧に、教えて下さった時」といった職場内での保育者としての成長を見守る働きかけについての記述があった。比較的経験年数の長い層において、「子どもの姿をよく見て子どもの思いに添った保育をする」「相手の気持ちによりそいながら接していくとよいことを教えられた」など子どもたちに寄り添うことに言及する記述が見られた。

表10 情報源

ID	年数	記述
4	1	・情報一家庭の状況を記入してもらう用紙、保護者からの話、家庭訪問、日々の子どもの様子 ・意見を求める時は、子ども同士のトラブルが起きた時や、保育を進める時に改善したいなー、と思うことがある時。
15	1	・家庭や他の先生から聞いた子どもの様子。 ・気になる姿が見られた時、ここをもっと伸ばしたいと考えてはいるが、うまくすすめることができない時、意見を求める。
19	1	・保育雑誌又はインターネット ・自分の対応が正しかったか確認する時。又、自分では答えがでず、他の先生方などのような対応をするのか知りたい時。
22	1	・自分は実際に現場で子どもと関わらないと一人一人理解するのは難しいと感じる。 ・昨年の担任の先生に“気持ちがうまく伝わらない時 どのように対応していたか”など。
27	1	・“子どもと同じ目線で”ということから理解しようとしている。 ・自分の関わり方が子どもの成長にマイナスになっているのではないかと不安になった時。
41	1	・親や前担任からの情報 ・その子と二人きりになりゆったりとした雰囲気の中で聞く。 ・困ったこと、悩んだことがあった場合、解決の糸口が見つからないとき
44	1	・専門学校での勉強。 ・普段の子どもたちとのかかわり。 ・あそびが長続きしないなど、保育をしていて悩みがある時。
10	2	・周りの先生方からの情報や親御さんからの情報
16	2	・子どもからのメッセージ、父母からのメッセージ、をもとに理解。 ・父母からの難しい質問が(連絡帳などで)来たとき、同僚の意見を求める。
21	2	・母も幼稚園教諭なので、母から「このような場合はどうするか、どんな対応例があるか」などを聞くことが多い。対応に困って悩んでしまったりした時や、発達障害、自閉傾向がある子を担任して、援助に困った時。
36	2	記述なし
37	2	・勉強してきたことや周りの先生、他の園の先生からの情報をもとにしています。 ・子どもに上手く伝わらないとき、子どもと打ちとけられないときなど他の方の意見をききます。
39	2	・保護者との会話や、保育から。 ・援助が難しかったり、自分の考えが正しいかどうか分からなくなった時。
6	3	・情報源は、日々のお家の方のおたより(連絡帳)の交換、先生方との会話 ・自分の見方が偏っていないかどうか戸惑いがあるとき
14	3	・毎日の子どもの姿、また自分の子どもの姿、等から ・保育の悩みや子育ての悩みを話している時
28	3	・専門書や保育雑誌 ・研修会 ・同僚や先輩との日常の中での会話(子どもについて。情報交換になっている) ・援助に困ったとき、分からない時

31	3	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、子どもと接している中で子どもを理解していく。 ・保護者の方から家での様子を聞いたりする。 ・他のクラスの保育者からの話を聞く。 ・その子についてうまく理解できない時、不思議な時は、他の保育者の意見を聞いてみたくなる。
38	3	<ul style="list-style-type: none"> ・お家の方との会話からだったり、子どもとの会話の中からだったり。 ・子どもの理解については、自分が不安に感じたり、迷ったり、困ったりした時はもちろん意見・考えを求めることはよくあり、その他にその子ができたこと、成長した姿を伝えたりしています。
42	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方や、職員との話の中で。 ・自分なりに考えた援助や保育をしても、子どもが、自分が予想した方向へいかなかった時に、意見を求めます。
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報源は尊敬している先生の本や言葉です。 ・意見を求めるのは常にです。自分の知らないAちゃんの興味関心、得意なことを他の先生が知っているというのは常にありますから。
2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・お家の方からの話を聞いたり(おたよりなど)、自分の考え方が正しいかどうかわからなくなった時、自分の気持ちも伝えながら他の先生方の意見も聞きます
3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子、姿のとらえ方が一人だと偏りがあり、よりよい援助・配慮をしていくためには周りの先生達の意見がとても役立ちます。そのためいつも子ども自身の日頃の姿、友達関係、家庭での様子、などの情報から、また子どもとの会話や遊びの様子などから理解していますが、どうしても行きつまることがあるので、周りの人の話を聞くようにしています。
5	4	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの生活や友達関係、親との関係と親からの情報 など ・子どもとの関係性が築けていなかったとき、先生方の意見をききます。でも・・・普段から、子ども達の話をしています。
7	4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報源は、お家の方から家での様子をきくこと。 ・会議や、一日の集会などの場面で情報交換時。自分の関わり方の未熟さから、子どもが安定していないと感じた時。
8	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで、いなかったタイプの子で、心の面から、なかなか乗り越えずに後退している子について、どうしたら良いかわからないときなど
9	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が自分の目で見てその子を理解する、又 自分では見きれない部分は他の教師からも情報をもらう ・親からのクレームなどは、他の先生からアドバイスを受けたりする
11	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと会話をしたり遊んだりしながら理解していく。 ・保育または対応で困った時は先生方に相談したり、聞いたりする
12	4	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の子どもたちのようすとかを見て、理解するようにしている。
13	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目と心、他教師からの意見、親からなど 多角的にとらえるようにしている ・指導がうまく伝わらない時(自分のかかわりなどに問題があると考えて) ・支援を必要とする子の理解を広める時
17	4	<ul style="list-style-type: none"> ・お家の方が書いてくださった資料 ・お家の方からの話 ・実際の園での様子 ・指導法で行き詰った時、に意見を求める
18	4	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に子どもとかかわって見たりまいたりしたことや家庭との連絡帳などを通して、知った情報などから。 ・自分の思っていたことに疑問を感じた時
20	4	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育要領、参考となる資料 ・園の生活に慣れない子がいた時、ケガをした時、父母との対応
23	4	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前の子どもの姿 ・保護者、周りの子どもたち、周りの保育者の話 ・自分自身のかかわり方がうまくいかない時 ・柔軟な見方ができなくなっている時
24	4	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭状況調査表、家庭訪問、懇談会、面談、連絡帳など
25	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊んでいる時の様子、子ども同士の会話、保育者との会話、表情、家庭の様子、話しを聞く時の様子など ・子どもの遊びの様子や生活の様子に変化が見られた時や自分の援助がうまく子ども達に響かない時
26	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育雑誌 ・子どもの見方が、固定化されてきたとき
29	4	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩の先生方の指導から ・本や研修で得たことから ・気になる子どもがいた時
30	4	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけではなく、園の教師全員で子どもの成長を見守り、様子を意見交換するようにしています。 ・保護者から家での様子を伺ったり、園の様子を伝える事で連携を図っています。 ・関わり方に戸惑ったり、成長が見られない時は意見を聞いて保育の参考にしています。
32	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育雑誌やTVなど ・自分の判断に迷った時に、意見を求める
33	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修会 ・保育に関する本や雑誌 ・自分であれ？と思った時にその都度、意見を聞かせてもらっている。(子ども達のトラブル 障害を持っている子どもについて)
34	4	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を大切に、まずは、親御さんに、家庭での様子を聞いています。気になる子に対しては、市の療育センターや健康増進課の方へ聞いています。 ・同僚の意見を求めるのは、その子に対して、他の先生方はどのようにみえているのか、他者の考えを知りたい時です。
35	4	<ul style="list-style-type: none"> ・常に周りの意見を聞いて、良いと思ったことは真似たり感心したりしています。テレビ、雑誌で学ぶこともたくさんあり、全てを受け入れずとも参考になることがたくさんです。子どもを理解することは難しいです。
40	4	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚の先生や保育の本などを参考にして、意見を求めるのは、自分がその子の事を十分に理解できていない時など、又、他の先生はどう感じているのかを聞きたいと思った時。
43	4	<ul style="list-style-type: none"> ・事実であろう情報をもとに理解している。 ・自分の考えが、まちがっているかもという点から同僚の意見をきくように心がけている。
45	4	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の子ども達の姿を見ながら、他の職員とも情報交換をして理解していきます。お家での様子もお母様にお聞きする時もあります。
46	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表情、態度、言葉、行動、子どもとのやりとり ・自分だけの視点でなく、他の職員の見点から意見を求めたい時

表11 実践力

ID	年数	記述
4	1	自分のペースでなく、子どもの様子に合わせて。
4	1	自分も楽しくなければ、子どもも楽しくない。
15	1	・声を出す(まだまだですが・・・報告、相談)(まず、担任が動かなければならない) ・遊びを提案しすぎない。 ・周りを引き込む。
19	1	・子ども一人一人を良く見て、その子の長所、短所を把握する ・子どもたちをだいきになる
22	1	思い出せません
27	1	いろんな子がいるのだから、悪いことをした時の対応も本当に分かってほしいなら、考えていかななくてはいけない、という事。
41	1	子どもが話を聞いてくれない、クラスが落ちつかない時、しかるのではなく、誉めたり、良いところを見つけて言うアドバイスをいただいた。
44	1	子どもが朝登園して来てから、あそびたくなるような環境を作ること。
10	2	例えば、子供達に達する言葉掛けや、製作等のすすめ方等、また準備をする時の手順等
16	2	記述なし
21	2	クリスマス会の劇の指導の仕方、セリフを言う所を、ただ大きな声で言うように指導するだけでなく、身振り、手振りも大きくつけてセリフを言うようにとアドバイスを受けて、そのようにした所、めりはりがついた。その後のクリスマス会の指導でも気を付けるようにしている。
36	2	記述なし
37	2	子どもへの対応、保護者への対応など沢山あります。
39	2	記述なし
6	3	・子どもの姿をよく見て、子どもの思いに添った保育をする ・その中でも、自分なりの信念も持つこと
14	3	・「活動」「行事」をすすめる上で一番の山を抑える事、一番伝えたい事をしっかり抑えておく事が大切。 ・「話をきかない」のは子どもが悪いのではなく、自分の話し方が悪いから。子どもを叱る前に、自分の指導を見直す。
28	3	「得意なことを、もっと生かした方がいよいよ」というアドバイス。
31	3	悩んでいる時、困っている時の具体的なアドバイス。 (例)なかなか落ち着かず話を聞かない時は、シートをしいてその中に座らせたり、手遊びや、音楽(ピアノ)を使って工夫したり・・・
38	3	その都度アドバイスして頂いて取り入れるようにしています。
42	3	・焦らずに、「沢山の事を経験して、先生になっていくんだよ」と、見守ってくれた時 ・自分の力を見極めながら、それに合った、仕事を与えて下さり、丁寧に、教えて下さった時
1	4	立ち居ふるまい
2	4	自分の気持ち、思いをしっかりと子どもにも伝えていくこと
3	4	〇〇が良かったと子どもの成長を気づいてもらえた時
5	4	アドバイスより、私にとって尊敬する先生が近くにいることだと思う。先生に近づくために努力することで、力にすこしずつなっていくのかな・・・と。
7	4	特にアドバイスや指導はないが、責任ある仕事や、新たな事を任せられた時
8	4	いろいろな行事で計画、実践などでいろいろなアイデアを教えていただいたり、誕生会(司会)やプリント類など当番制で全員が出来るようになっていくようにしている事
9	4	・集会の進め方 ・親への接し方
11	4	人前で話せるようになったこと
12	4	そのつど、こまごまときなどに受けるアドバイスが身につけていったと思う。
13	4	・電話で親御さんに「子どもをプラス指向で見て接して欲しい」と長々訴えたあと、「研究発表できる内容ね」と声をかけられた時。 ・発表会のあと「子どもひとりひとりの良さを引き出す内容と子ども達の姿にド胆を抜かれました」と言われたとき。
17	4	・細かい点の言葉使い ・リアクションのしかた
18	4	学年及び全体での進行等をまかされた時にメリハリのある指示をだすようにと言われたこと
20	4	・課題を持つこと ・分析をしっかりとすること ・自分の保育を振り返る
23	4	あまり周りのものにとらわれず自由な発想で保育してみる。
24	4	・自分の周りにいる子どもも当然ですが遠くにいる子どもたちに目を向ける。 ・背中にある子ども後ろに目があるように見る。
25	4	・指導計画はなるべく綿密に立てる事 ・子どもの行動を予測して保育の準備をする事
26	4	自分の得意なことを生かしながら、自分の保育のカラーをもつ
29	4	・常に新しいものを取り入れようとする努力 ・全体指導と個人指導のバランス ・保護者への対応
30	4	折り紙製作時、手先が不器用だったり戸惑っている子に対して、アドバイスをうけました。折り紙の中心、折りすじなどを、子どもが分かりやすい言葉(へそ、アイロン等)に言いかえたり、折る課程を順番に貼って見せていく事で、目と目で理解できるように指導をうけました。
32	4	記述なし
33	4	記述なし
34	4	家庭との連携をしっかりとすること。 特に3歳児は初めて集団生活を経験する為、親も子どもとも不安な面も持っている。どんなに小さなことでも伝えることで安心し、信頼関係がしっかりと築ける。
35	4	記述なし
40	4	・保護者への対応や気になる子や又、その親への対応など 若い時は、こわいもの知らずで思った事などすぐ話していたが、自分が親となり、親の気持ちも考えながら、子どもの事も一緒になって、話を聞いたりしながら対応できるようになったと思う。
43	4	自分の思いだけを伝えるのではなく、相手の気持ちによりそいながら接していくとよいことを教えられた。
45	4	子ども達の行動の裏側にある気持ちのくみとり方、とらえ方など
46	不明	先輩から誉められたり認められたりして、自信がついた

表12 磨いていること

ID	年数	記述
4	1	笑顔
4	1	一緒に遊びを楽しむこと
15	1	子どもたちの姿を、気持ちを捉えられるように気を付けている。(思いを引き出すには、どうかかわればよいのか等)
19	1	・子ども一人一人の様子を把握する。 ・一日1回は良い所を褒める。 ・何事も一緒に楽しむ。
22	1	常に子どもの目線になって物事を考えていくこと
27	1	1日1日を子ども達とともに楽しむ。
41	1	・ピアノ ・体力 ・叱ったり、大きな声でまとめるのではなく、その他のやり方で子ども達をひきつける
44	1	子どもを理解する力。
10	2	努力を忘れず・・・先輩方の保育の様子を見せて頂き勉強する
16	2	見て学ぶ力。
21	2	趣味でHipHopダンスを習っていますが、いつか子どもたちにもダンスを通して表現する楽しさ、人前で表現する達成感や喜びを教えられたらと思い、磨きをかけています。
36	2	記述なし
37	2	自分では、まだわかりません。
39	2	保育室の環境整備
6	3	行動力
14	3	・保育の反省を自分でしっかりすること。 ・周りの保育者の良いところを探し、真似る。
28	3	他人がしたがるなことを、率先してやるような人間になりたいと思っています。できるだけ実行しています。
31	3	・明るさ、声の大きさ。 ・笑顔。 ・何でも楽しむこと、広い心。
38	3	自分では成長しているかどうかはわかりませんが、いろんなことに興味を持って生活することかな・・・と思います。
42	3	・子どもとの会話を大切に。(話をゆったり、じっくりと聞く) ・ピアノ
1	4	思いつきません
2	4	自分に厳しく
3	4	「子どもと共に」を大切にしたいと考えています
5	4	楽しむ。
7	4	・保護者理解 ・保護者の思いに耳を傾け、どうアドバイスしていくかを考えている
8	4	父兄が入る行事や実習生がいる時など、気持ちを引き締めている。導入からの流れをスムーズに保育する事など
9	4	・子どもを集中させるための話し方 ・親への対応
11	4	・製作等は新しい物に挑戦したり、外部から来て教えてくれる先生方(英語、体操など)の子どもたちのまとめ方など良いところを真似てみたりしている ・子どもに対する話し方(わかりやすく言う)
12	4	いろんなことに気がつき、感動する気持ちをもっていること
13	4	・向上心 ・「これでいい」ではなく「これがいい」の保育
17	4	子どもの興味を探る
18	4	子どもの動きや反応を予想、予測すること
20	4	・子どもを観る目 ・感じる心
23	4	子どもをよく観察する
24	4	記述なし
25	4	・子どもに話す時のことばや接し方 ・子どもが理解しやすい伝え方 ・子どもがリラックスして自分を出す事ができる雰囲気
26	4	・子どもの声をよく聞くこと ・子どもの気持ちに気づく心をもつこと
29	4	・感性 ・対人関係
30	4	・子どもの手本となるよう、挨拶をきちんとする事や、いつも見られている意識を持ち、元気、笑顔で日々の保育が出来るように心がけています。 ・保育本を参考にしたり、他の先生方の保育を参考にし、自分の保育に取り入れています。
32	4	子ども達に対する言葉がけの数、種類など(例えば、誉める時もスゴイ、上手ばかりではなく、具体的に捉える言葉)
33	4	保育とは、直接関係のないことでも、日常の中で見たり・聞いたり、読んだり・広く関心をもっていること。
34	4	子どもと接する上では、やはり体力勝負!! 常に元気な保育者でいたい為、健康管理をしっかりとおこない、丈夫な体を作っています。
35	4	記述なし
40	4	記述なし
43	4	いろいろな講習会に参加するようにしている。
45	4	子ども達に愛情を持ち、素直な気持ちで対応していく
46	不明	・子どもの内面を読みとろうとする事 ・子どもが楽しめる ・園に対して親しみをもてるようなかわりを心掛ける事

表13 自身の成長

ID	年数	記述
4	1	皆が活き活きと時間を過ごしているとき
15	1	(正直、成長できているのかわかりません。まだまだ足りない所が沢山あります。)・絵を描く時、いざごの仲立ちをする時、遊ぶ時に、子どもと共に考え、一緒に実施し、共に納得できた時。
19	1	・臨機応変に対応できたこと。 ・言葉の言いまわしが子どもたちにスムーズに入った時。
22	1	・子どもたち全員が真剣に話を聞いているとき 今までただ大声で言うだけで、全員が集中できるように工夫をしていなかったが、少し自分に余裕が出てきたため、全員が集中して話を聞ける状態になってから話し始めることができるようになった。
27	1	遊びの中で子どもが感じたことを共感できるようになった時
41	1	今まで出来なかったことや自信がなかったことが出来たとき。
44	1	しかるのではなく、なるべく褒めるようにして子どもとかかわることを意識して保育をしていたら、褒めることが多くなったこと。
10	2	日々、勉強のためまだ成長したと感じません
21	2	子どもたちが集中して話を聞ける雰囲気をあまり時間が掛からずに作れるようになったこと。
36	2	子ども達と一緒に過ごしたり、頑張ったりし(行事、活動など)最後までやり遂げた時。
37	2	・子どもに上手く伝えられたとき。 ・子どもたちがまとまったとき。
39	2	子どもたち自身の成長、行事を成功させた時。
6	3	成長を自身で感じることは、あまりありません
14	3	・迷いなく進められた時(主になって指示を出す立場の時) ・クラスの一体感を感じるようなクラス作りができている時
16	3	少ない言葉で子ども達が理解して動いた時。
28	3	臨機応変に対応することができたとき。
31	3	・クラスのまとまりを感じた時。(みんなで協力できた時) ・その子の成長が、感じられた時。
38	3	活動を取り入れる中で、導入の部分から子ども達と一緒に楽しむすめ、子どもたちが大変喜んで取り組んでいる様子を見て、自分の事前の準備を細く丁寧にできていたなと感じた時等です。
42	3	ゲーム等、様々な活動をする中で、子どもたちが「楽しかった！」と言ったり、感じてくれた時
1	4	成長は感じません
2	4	自分の事はよくわかりません…
3	4	まだまだ未熟なところが沢山です。
5	4	わからない…
7	4	未就園児教室の親御さんから、「自分の子どもをわかってくれてありがとう」と言われた時
8	4	子ども達が生き生きと活動したり、出来なかった事を頑張って乗り越えてくれた時に感じる
9	4	教えたことが、子どもたちなりに出来たとき
11	4	大きな行事等で一緒に行い怒ったり励ましたり誉めたりしながら一つ一つのものが完成した時(子どもたちがしっかりついてきた時)
12	4	ひとつひとつの行事、活動が終わったとき
13	4	滅多にありませんが「今日はいいい保育ができた！」と思った時。
17	4	年度末 子ども達の成長を感じられた時
18	4	・子どもが予想以上に活動を喜び楽しんでくれたとき ・話を集中してきいてくれるようになったとき
20	4	遊びが楽しく展開できた時 クラスのまとまりを感じられた時 子ども達の成長した姿がみられた時
23	4	かわりをもったり、援助したりしてきた子が、自分で考えて遊びを楽しめるようになったり、意欲的に様々な事に取り組むようになった時、自分自身がその子の成長のきっかけになる事ができた時。
24	4	まだまだ成長途中だと思っています。
25	4	子どもが自分の力で生きいきと生活していたり活動や遊びを楽しんでいる姿を見た時
26	4	記述なし
29	4	・子どもたちの成長 ・子どもや保護者と信頼関係が築けた時
30	4	行事や活動を子ども達が楽しく参加したり、伸び伸びと行い成長を感じられた時に、自分の保育のあり方が良かったと嬉しく思い、成長出来たと感じます。
32	4	子ども達の満足そうな表情を見た時
33	4	一年間の行事の中で、ひとつひとつの発表するものがイメージ通りに完成した時。(運動会や発表会などで)
34	4	気になる子に対し、様々な対処法を実践し、少しずつでもその子が成長してきたと感じた時に、自分も一緒に成長できているかな…と感じています。
35	4	記述なし
40	4	できなかったことができるようになったとき
43	4	子どもたちがたのしそうにあそぶ姿をみたとき
45	4	子ども達の成長を感じた時
46	不明	子ども達が集中している様子や表情や態度から楽しんでいる様子を伺えたとき

表14 実践家に必要な資質

ID	年数	記述
4	1	笑顔
4	1	多面的に物事を考えられること、子どもを見られること
15	1	・子ども、保護者、地域と真剣に向かい合うこと。 ・自分の弱い部分とも向き合い、認め、子どものため、自分のためにと、向上心を常に持つこと。
19	1	知識・・・学校で学ぶ科目の内容(最低でも)。 技術・・・みんな平等に対応すること。 態度・・・自ら進んで行く気持ち。先輩方から学ぼうとする観察。(雑用でも掃除でも保育以外でも)。
22	1	・ケガの対応 ・子どもの発達段階 ・子どもを理解しようとする態度
27	1	知・・・子どもの置かれている環境 技・・・柔軟な考え方 態・・・めりはり
41	1	・アレルギーについて、障がいについて、食べ物についての知識 ・ピアノ、話術、表現力 ・笑顔、元気、誰に対してもお礼や謝ることも大切だと思う
44	1	・子どもを理解すること ・あそびを作り出す力 ・謙虚な姿勢(子どもに対しても上から目線にならない)
10	2	臨機応変に動く事
16	2	知 けがや病気の対処法 技 子ども達の興味をひく様な言いまわしなど 能 筋の通った言葉掛け
21	2	・子どもの発達段階(年齢、月齢)はしっかり捉えておいた方が良い。 ・子どもに言っていることは、自分もやるべきだと思う。(好き嫌いせず残さず食べよう。人の話をしっかり聞
36	2	知識 悪いこと、良いことを知っている。 技術 できないことでも一生懸命すること。 態度 どの子にも愛情を持って関わること。
37	2	・幅広い視野をもって子ども達と毎日元気に明るくすごせること。 ・子どもの発達についての知識。優しさ。
6	3	子ども達など、周りの方々への思いやり
14	3	・子どもの発達についての知識 ・子どもをひきつける話し方や遊び ・一人ひとりに同じ愛情をもってかかわる事
28	3	・絵画・音楽・体育などどれかに偏らず、バランスがとれていると良いと思う。 ・共感する姿勢(子ども、保護者、同僚・・・)。
29	3	・様々な分野の知識を広く ・ピアノ、絵画工作 ・他人の話しに耳を偏け、色々なものに挑戦していく態度
31	3	・一般常識 ・明るさ、前向きさ、忍耐力、精神力、根性、表現力。 ・子どもを好きという気持ち。
38	3	知識、技術、態度は子どもたちと過ごす中で、子どもたちがプラスになる保育ができることかなと思います。
39	3	保育者として、子どもたちに教える立場なので、中途半端にならないよう気をつける。
42	3	・それぞれの年齢に合った、発達(できること、できないこと) ・ある程度のピアノ ・素直さ、謙虚さ、子どもが好き！という気持ち
1	4	幼児理解
2	4	あたりまえの事をあたりまえにする
3	4	一般的な子どもの成長、年齢に合った姿を知ること・・・だとは思いますが、知識、技術よりも子どもと正面から向き合う一生懸命な気持ちが大切だと思います。
5	4	人間らしく生きること？
7	4	・幼児理解(発達面) ・子どもの心に寄り添う気持ち ・心から素直に子どもと接すること
8	4	・一年の行事にかかわる事、病気、手当のしかた、絵本の読み聞かせ、ピアノ、文章力など ・話術
9	4	常に向上心を持って何事にも積極的に取り組むこと
11	4	・常にいろいろなところに目を向けていくこと ・口だけで動かすのではなく、一緒に動いて行うこと ・子どもたちといっぱい遊んで子どもを知ること

12	4	・健康で笑顔があり、元気なこと ・基本的な作業が(技術)ができるように努力すること
13	4	知識・・・一般常識を正しく広く 技術・・・子どもを見る目 態度・・・人としての温かさ、一生けん命に取り組む、向上心
17	4	・その子の発達段階を理解すること ・一人一人がクラスの仲間であることが意識できるクラス作りをしていくこと ・保育者自身がいつも健康で元気でいて子供と接すること
18	4	・幼児の発達段階にあった指導計画 ・子どもを認めてあげ自信をつけさせる指導力
20	4	知識・・・幼児教育、一般的な知識 技術・・・絵画、音楽、言語、ピアノ、体育 態度・・・やさしさ、厳しさ、あたたかさ
23	4	・発想力 ・瞬発力 ・観察力 ・待てる心の余裕
24	4	いろいろなものを観たり、聴いたり、経験すること、又、楽しむことだと思います。
25	4	・子どもを大切にできる心と態度 ・基本的な生活について(挨拶、食事、排泄、衛生面、着脱など) ・遊びについて
26	4	観察力、コミュニケーション力、文章力、言葉づかい
30	4	・子どもの成長課程を知り、その子一人ひとりに合った保育や援助はどうあるべきか理解しておく事が必要だと思います。 また、子ども、保護者に対して手本となり、園生活が充実し、楽しくなるような雰囲気づくりや礼儀・挨拶が大切だと思います。
32	4	病気やケガに対する知識、誰とでも(どのような保護者に対しても)話ができる会話術
33	4	専門の知識も必要だと思うが、一般的な常識は、必須だと思う。
34	4	・子どもを理解しようとする気持ち、探究心、どの子ども平等に包みこむおおらかさ。 ・共に笑顔で、毎日元気に過ごせるパワフルな体力!
35	4	記述なし
40	4	記述なし
43	4	・相手を思やる気持ち ・基本的なマナー(服装、言葉使いetc) ・保育の質を向上させるためにいろいろな方の話をきく。 (大学の講習会などすごく勉強になる)
45	4	子ども達を理解する力、大人としての社会性、謙虚な態度
46	不明	・知識-日常様々な事(生活全般にかかわる事) ・技術-子どもの成長の手助けとなる会話力、読みとり力などの他、ピアノや絵画 ・態度-子ども・保護者の見本として恥ずかしくない態度

⑦磨いていること 「保育の反省を自分でしっかりすること」、「一緒に遊びを楽しむこと」、「一日1回は良い所を褒める」、「子どもがリラックスして自分を出す事ができる雰囲気」など子どもたちと接する態度につながる記述が見られた。

⑧自身の成長 どの経験年数でも、「子どもたちがまとまったとき」「年度末 子ども達の成長を感じられた時」など子どもの成長に関する記述、「子どもにうまく伝えられたとき」、「少ない言葉で子ども達が理解して動いた時」など声かけに関する記述、「クラスの一体感を感じるようなクラス作りができていく時」、「クラスのまとまりを感じられた時」などクラス運営に関する記述、「皆が生き活きと時間を過ごしているとき」、「子どもが予想以上に活動を喜び楽しんでくれたとき」など子どもたちが充実した活動をする事に関する記述、「行事を成功させた時」、「大きな行事等で一緒に行き怒ったり励ましたり誉めたりしながら一つのものが完成した時(子どもたちがしっかりついてきた時)」など行事に関する記述、「子どもや保護者と信頼関係が築けた時」など保護者との関係に関する記述が見られた。経験年数11年以上の層で、「まだまだ未熟なところが沢山です」「まだまだ成長途中だと思います」といった、保育者として常に成長を意識する記述があった。

⑨実践家に必要な資質 「一般常識」など社会人として必要な事柄、「明るさ、前向きさ、忍耐力、精神力、根性、表現力」などの心構え、「幼児理解(発達面)」などの専門的知識まで幅広い内容の記述が見られた。

⑩保育の担い手として必要な資質 ⑨で挙げられていたことに加え、「パソコン」といった情報機器の操作が挙げられていた。

表15 保育の担い手として必要な資質

ID	年数	記述
4	1	・発達障害について ・どの子も受け入れる気持ち、実際の姿勢
15	1	子ども、保護者、地域と真剣に向かい合うこと。
15	1	・自分の弱い部分とも向き合い、認め、子どものため、自分のためにと、向上心を常に持つこと。 ・子ども一人ひとりを見つめ、一人ひとりに合ったかかわりができるような、目(視野の広さ)、思考(どのように対応するべきか、いくつもの言葉や方法)
19	1	常に向上心を持つこと!!!
22	1	・ケガの対応 ・子どもの発達段階 ・子どもを理解しようとする態度
27	1	知・・・障がい児保育について 技・・・柔軟な考え方 態・・・めりはり
41	1	・食育を考えるが、まだまだ食べ物の知識がないので勉強していく ・ピアノや遊びをうまく発展していけないので、そういった技術も身につけたい ・常に笑顔、元気、お礼や謝ること、教えていただく気持ちを忘れない
44	1	・子どもを理解すること ・遊びを作り出す力 ・謙虚な姿勢(子どもに対しても上から目線にならない) 上記の内容の更なる向上。
10	2	あらゆる場面を予想し、機敏に動き、今おこっている状況を把握し対応していく事が大切だと思います
16	2	記入なし
21	2	・コミュニケーション能力(柔軟な思考で対応できるように)・・・保護者の方への対応 ・最低限の社会のマナー ・ダンス、ヨガ、などの最近の(?)スポーツ(?)など ・Word、Excel
36	2	知識 悪いこと、良いことを知っている。 技術 できないことでも一生懸命すること。 態度 どの子にも愛情を持って関わること。
37	2	子どもの気持ちを読みとれるよう、発達のことや、一緒に元気に明るくすごせること、優しさ。
39	2	謙虚な姿勢を忘れずに、指導を受けたことも自分のものにする。
42	2	・学校で学んだ事全般 ・ある程度のピアノ ・素直さ、謙虚さ、子どもが好き!という気持ち、どんなことに対しても、自ら進んで行おうとする、意欲
6	3	子どもと共に保護者との関わり方について、物、目に見える物ばかりに捉われない楽しさを経験できるような保育を!!
14	3	・保育、子どもの事だけにかかわらず、社会の色々な事に対する知識 ・子どもへの対応+保護者への対応の技術 ・柔軟に対応できるようになること
28	3	・絵画・音楽・体育などどれかに偏らず、バランスがとれていると良いと思う。 ・共感する姿勢(子ども、保護者、同僚・・・)。 この二つは必要だと思います。 ・英語や水泳など、専門の講師でなく 保育者が教えなければならない場面が増えてくるかもしれないので、その辺りの知識。 ・一般に、モンスターペアレントと呼ばれるタイプの保護者の思いに共感できるだけでなく、屈しない心の強さ。
31	3	・明るさ、前向きさ、忍耐力、精神力、根性! ・どんどん複雑になっていく現代社会、子ども達を取り巻く環境も変化している。そのような時代に生活している親・子どもとうまく関わりながら、親も子ども保育者も共に成長していけるような関係作りをしていく必要がある。→技術、コミュニケーション能力など・・・様々な人と対応できるそんな力。私自身、身に付けていきたい所だ。
38	3	知識、技術としては新しい物、新しい事を取り入れて子どもたちにおおらせるもの、態度としては臨機応変に対応する姿かなと思います。
1	4	・発達についての知識 ・保護者さんの気持ちを考えることのできる心と折れない強さ ・明るい態度と周囲の人・事から学ぼうとする態度
2	4	子どものことを、親と、先生達と、そしてクラス子ども達で考えていける保育
3	4	自分がどう人間か、人としてどうか大切にしたいです。人と人のかかわりが保育だと思うので。
5	4	ずっと考えつづける心?
7	4	・自分に正直であること ・子どもと同じ目線で遊べること ・一生懸命 物事に取り組むこと
8	4	・場の雰囲気を感じ、自分が何をすればよいか常に考えて行動できる先生 ・子どもの目線と向き合い、良い事、悪い事をきちんと教え、導いていける先生 ・親の立場になり考えられる先生 など
9	4	常に向上心を持って何事にも積極的に取り組むこと
11	4	・新しいもの、いろいろなところに目を向ける(いつも同じではない) ・積極的に何でもこなす、行う ・子どもたちといっぱい触れ合うこと

12	4	子どもが学ぶ、身につける基本的なことが保育者として理解し、やれることだと思います。
13	4	素直な心、心を育てる仕事なので人としての温かさ、正しく反省する力、向上心
17	4	・その子の発達段階を理解すること ・一人一人がクラスの仲間であることが意識できるクラス作りをしていくこと ・保育者自身がいつも健康で元気でいて子供と接すること
18	4	幼児をとりまく全ての環境を考え、積極的に行動し、なおかつ気配りもきちんとできるようにすること
20	4	・前向きにチャレンジする心 ・学ぶ意欲 ・子ども達と向きあう心 ・的確に、分析し判断する力
23	4	・周りをよく見る(子ども、保育者)観察力 ・自分で考え行動できる行動力 ・柔軟な見方
24	4	・絵を観たり、音楽を聴いたり、運動したり、映画を観たりと興味のあるものに積極的に経験することだと思います。 ・人とのコミュニケーションも大事だと思います。
25	4	・子どもを大切にできる心と態度 ・基本的な生活について(挨拶、食事、排泄、衛生面、着脱など) ・遊びについて 上記にプラスして……保護者の気持ちを理解しようとする態度
26	4	・自主性、協調性 ・パソコン
29	4	・様々な分野の知識を広く ・ピアノ、絵画工作 ・他人の話に耳を偏け、色々なものに挑戦していく態度 ・上記にプラスして生活、健康に関する知識、経験
30	4	他の先生方の良い所はたくさん見て学ぶ事や、自分の特徴や得意な面も取り入れて、保育をする必要があると思います。
32	4	・挨拶、返事がしっかりできること ・挑戦する気持ちを持つこと
33	4	・一般常識が必要。 ・専門知識は経験とともについてくると思います。
34	4	・何事にも前向きで、些細なことでもめげない強い心！！ 保育者になって最初の壁は、保護者とのかわりだと思います。(私はそうでした…) 子育てもしない若い先生に何がわかるのか？どうせ2・3年でやめられるんですね…等言われ悩んだこともあります… 専門的なことを学んできたという自覚をもち、自信をもって保育にあたっていく必要があると思います。 そして、子どもと共に成長していこうと、常に向上心をもつことが大切であると思います。
35	4	記述なし
40	4	どんな事でも上手出来るのは素晴らしいことだと思いますが、それぞれ得意な事や苦手な事がある方が人間らしくていいと思います。保育者の先生達で知識をわけあい、何でもオープンに話せるようであればいいと思います。
43	4	一般常識をきちんとわかる
45	4	記述なし
46	不明	・知識-日常様々な事(生活全般にかかわる事) ・技術-子どもの成長の手助けとなる会話力、読みとり力などの他、ピアノや絵画 ・態度-子ども・保護者の見本として恥ずかしくない態度

3. 考察

現職保育者の保育についての「気づき」に関する事柄を幅広く集めて、保育者自身、子どもとの関係、同僚との関係における「気づき」がどのようなものであるのか、保育者の記述から保育者省察尺度との比較を行う。

1) 現場で期待される「気づき」

保育者自身については、日々の振り返りの記述から、保育における計画、環境構成や指導・援助などについて試行錯誤や失敗を省みて計画・実践・反省・改善につなげ、自らの保育のあり方や子どもにとって良いと考えられる保育を模索していくこと、自分が保育者として子どもたちにとってどう接するのか、指導・援助する自分が子どもたちからどう見えているであろうか等といったことを日々考え、望ましい保育者のあり方や指導・援助

の仕方、保育に臨む姿勢などを模索していると考えられる。また、子どもを観ることににおいては、子どもが活動に参加する姿が「生き生き」としているかなどの保育観から保育者なりの視点をもって子どもや子どもの成長を観て日々の保育を振り返り、子どもにとって自らの保育が良いものであるかどうかを捉えようとしていると考えられる。他者との交流を通じた省察では、幼児への指導・援助に迷ったとき、自分の考えを確かめたいときに同僚に相談をしたり、同僚から計画作成と幼児への指導・援助方法等について具体的な改善方法を教えられたりして、保育や子どもについて考え、実践力を高めていこうとしていると考えられる。

2) 保育者省察尺度との比較

今回の調査協力者は、現職保育者46名であったが、保育実践の振り返りに関する保育者の回答を保育者省察尺度で扱われている項目と比較すると、いくつかの発見があった。

まず、現職保育者は「計画に無理がなかったか」、「一人一人に目を向けていたか」、「ねらいを達成できたか」、「活動に合う環境だったか」等、計画・実践・記録・評価・反省といったPDCAサイクルに基づく自らの保育の振り返りについて記述していた。そして、子どもについての現職保育者の記述には、「生き生きと活動に参加できていたか」、「子ども達の頑張った所を認め、明日へつなげていく」、「怪我やトラブルなど嫌な思いをして帰った子がないかどうか」といったように、子どもが活動に参加する様子や子どもを観る視点、子ども自身の期待を翌日に向けて高めていくような、具体的な記述があった。他者との交流においては、現職保育者が情報源として活用する資料として、子育てに関する本や保育雑誌からインターネットや研修会、療育センター等が加わっている。現職保育者の視点を生かして、いくつかの項目を作成して加えてもよいのではないだろうか。

IV 全体的考察

本研究では、保育者養成校の学生を対象に保育者省察尺度を調査し、その適用可能性を探った。以上の結果から、保育者養成において学生の省察力を育成する際の評価指標としておおむね適用可能であると思われる。もちろん、学生と現職では省察の内容も異なり、学生の場合には実習中の直接的な経験の振り返りが中心であり、他者との交流についての省察からも実習中に“他者から学ぶ”姿勢が読み取れる。一方、現職者においては日々の振り返りの記述などからも、自らの保育の実践を反省し改善につなげていくという、“自ら学ぶ”姿勢が明確であり、自らの保育実践から生じた課題や疑問をいかに解決していくかという点で、他者との交流が求められているように思われる。この点はまさに学生と現職の経験差を反映したものであり、養成課程と現場との接続を考える上においても重要なポイントであると思われる。今後は、現職者の視点や実態を反映させながら、他者との交流に関する省察を中心に項目を追加しながら、“他者から学ぶ”から“自ら学ぶ”へのステップを追跡できる尺度構成となることが期待されるであろう。

本研究では現職データが多くはなかったために、因子構造を検討することができなかった。学生対象の分析についても探索的なものにとどまっているが、今後はさらにデータを追加した上で、杉村ら(2009)の結果を踏まえながら現職者と学生との間で確証的因子分析を行うことで、構成概念妥当性の確認を行うことが期待されるであろう。

引用文献

- 安部孝・原田智鶴,保育実践力を培う実習指導の展開1 ～「学び合い」の意味～,全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集,Pp.172-173,2011.
- Adams,W.A., Adams,C. & Bowker,M. , The Whole Systems Approach: Involving Everyone in the Company to Transform and Run Your Business. Executive Excellence Pub,1999.
- Brown,J., Isaacs,D. & World Café Community,The World Café: Shaping our futures through conversations that matter.Berrett-Koehler Publ,2005. (香取一昭・川口大輔 (訳), ワールド・カフェ, 一カフェの会話が未来を創る. ヒューマンバリュー,2007)
- 金川舞貴子,「校長養成・研修におけるショーンの反省的実践家論に関する一考察 ～M.エロウのショーン批判を手がかりに～」 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部第55号,Pp.133-142,2006.
- 木戸啓子,保育実習生のエピソード記録からみる保育実習の学び,全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集,Pp.118-119,2011.
- 三浦主博・音山若穂・藤本このみ,保育実習指導への対話的アプローチ導入の試み,東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要,43,Pp.115-122,2012.
- 森敏昭・秋田喜代美 (編) 「教育評価—重要用語300の基礎知識」 明治図書出版,2000.
- 音山若穂・利根川智子・井上孝之・上村裕樹・三浦主博・河合規仁・安藤節子・和田明人,保育者養成における実習指導への対話的アプローチの導入に関する基礎研究,群馬大学教育実践研究, 29, Pp.219-228,2012.
- 幸順子・秋田房子・紀藤久美子,反省的実践に有用な保育実習記録様式作成に関する研究 —実習生と保育所への調査結果を通して—,保育士養成研究,26,Pp.67-76,2008.
- ショーン,D. 佐藤学・秋田喜代美 (訳) , 専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える,ゆみる出版,2001.
- 新開よしみ・柳瀬洋美,グループダイナミックスを活用した保育実習指導 I,全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集,Pp.124-125,2011.
- 杉村伸一郎・朴信永・若林紀乃,「保育者省察尺度に関する探索的研究(2): 省察の3層モデルによる検討」,『広島大学心理学研究』, 6, Pp.175-182,2006.
- 杉村伸一郎・朴信永・若林紀乃,「保育における省察の構造」,『広島大学幼年教育研究年報』, 31, Pp.5-14,2009.
- 利根川智子・井上孝之・和田明人・上村裕樹・三浦主博・河合規仁・安藤節子・音山若穂,保育実習事後指導における対話的アプローチの一実践と効果検証についての基礎研究,保育士養成研究, 29, Pp.21-30,2011.
- 津守,「保育の体験と施策 —子どもの世界の探求」 大日本図書,1980
- 山田秀江, 学びを深める保育実習事後指導のあり方について II —実習個人カルテ作成の試み—,全国保育士養成協議会第49回研究大会発表論文集,Pp.208-209,2010.
- 山森泉・福井逸子,保育所実習における記録のあり方 —エピソード記録からエピソード記述へ—,全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集,Pp.300-301,2011.
- 和田明人・井上孝之・上村裕樹,対話による集合知の創生に関する研究 —ホールシステム・アプローチの適用・試行—,全国保育士養成協議会第49回研究大会発表論文集,Pp.194-195,2010.
- 和田明人・音山若穂・上村裕樹・利根川智子・青木一則・君島昌志・駒野敦子・日野さくら,保育実習指導における対話と共同 (1) —ワールド・カフェの試行と効果,東北福祉大学研究紀要,36,Pp.235-250,2012.
- 若林紀乃・杉村伸一郎,保育カンファレンスにおける知の再構築,広島大学大学院教育学研究科紀要第三部, 第54

号,Pp.369-378,2005

注 本研究は2012年度独立行政法人日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 24500887 「対話型アプローチに基づく保育研修プログラムの開発と評価法の検討」(研究代表者・音山若穂)の助成を受けた。